第６回瀬戸市基本構想審議会協議事項要旨【R8.9.8 開催】

≪委員一覧≫

	所属等	氏名	分野等
1	南山大学総合政策学部教授【会長】	石川　良文	都市環境政策、地域経済、**政策評価**
2	株式会社官民連携事業研究所	鷲見　英利	**官民連携**
3	ラジオサンキュー(RADIOSANQ) 瀬戸市障害者地域自立支援委員会	林　ともみ	**福祉**（障害者福祉)、マスコミ
4	大橋運輸株式会社	蔵地　真弓	**ダイバーシティ**、ＬＧＢＴＱ
5	多文化ソーシャルワーカー	神田　すみれ	**多文化共生**、外国人の社会参画
6	朝日インテック株式会社	梅村　佳範	**地域経済**、地域産業
7	名古屋大学情報学部教授	浦田　真由	**地域ＤＸ**、ＤＸ推進、オープンデータ推進
8	株式会社PoliPoli	伊藤　和真	**GovTech**（政治･行政×テクノロジー）
9	東海旅客鉄道株式会社事業推進本部	吉澤　克哉	**関係人口創出**
10	瀬戸くらし研究所／株式会社きんつぎ	野々垣　賢人	**地域デザイン**
11	土街人プロジェクト／双寿園　※欠席	石川　圭一	**ローカルコミュニティ**、地域課題･魅力の見える化
12	愛知産業大学通信教育部造形学部准教授	堀部　篤樹	建築計画、**住民参加型まちづくり**
13	名古屋学院大学現代社会学部准教授	水谷　香織	**社会的合意形成**、参加協働、社会基盤計画

≪協議事項≫

１　基本構想　構成イメージについて

①共有された方向性

⑴基本構想全体の構成・内容

・これまでの議論を踏まえ、将来像「混ざって生まれる。化学変化がめぐるまち」に込めた思いや瀬戸らしさが伝わる基本構想として、おおむね整理されているとの認識が共有された。

・一方、2040 年を見据えた基本構想として、「長期的な人口変動や土地利用などを踏まえ、今後の瀬戸市が目指す方向をより分かりやすく示した方が良い。」「テクノロジーによる社会の変化を基本構想・基本計画の中でどのように捉えるか」等の意見があった

⑵市民への伝わりやすさ・デザイン

・子ども、高齢者、外国人、障害のある方など、様々な方が見て理解できる基本構想とすることが重要であり、文字の大きさや表現、やさしい日本語、音声、簡易版など、伝え方を含めた工夫が必要である。

・将来像を表現するデザインについては、冊子全体の視線の流れや色合い、文字量などにも配慮し、市民が興味を持ち、未来の瀬戸をイメージできるものとすることが望ましい。

⑶基本構想と基本計画等とのつながり

・基本構想が市の長期的な方向性を示し、その実現に向けた具体的な取組を基本計画や個別計画等で進めていくという関係を、市民にも分かりやすく示す必要があるとの認識が共有された。

・土地利用についても、基本構想に長期的な方向性を位置付け、都市計画マスタープランなどの個別計画との関係性が分かるよう整理することが望ましいとの意見が示された。

②委員意見要旨

⑴基本構想全体の構成・内容

・将来像に込めた思いが伝わる内容となっている。２０４０年まででなく、その先の人口変動も把握した上で、２０４０年までに何を実現しておく必要があるのかを考えることが重要である。人口減少や高齢化も必ずしも暗いものとして捉えず、変化を楽しむ視点があってよい。【水谷委員】

・「まちの仕組みを整える」「まちのかたちを整える」は今後の瀬戸を考える上で必要な内容である。公共施設や学校についても、市全体としてそのあり方を考え、市民とともにつくっていく視点が重要である。【堀部委員】

・特徴的で「尖った」基本構想でありながら、瀬戸らしさがあり、課題も認識した内容となっている。土地の記憶を大切にしながら未来を目指す方向性を、市民に分かりやすく伝え、自信を持って打ち出してほしい。【伊藤委員】

・「あなたは２０４０年の瀬戸にどんな景色を思い描きますか」のページは、自由に考えてもらうだけでなく、考えるきっかけや書き込みやすい工夫があると良い。【吉澤委員】

・「次世代中心デザイン」のように、現在の世代だけでなく次の世代にとって何が良いのかという視点を意思決定に取り入れることで、「賢く縮む」という考え方も理解しやすくなる。【吉澤委員】

・一般市民の立場から見ると抽象的な内容もあるため、目指す姿を具体的にイメージできる例があると分かりやすい。瀬戸ならではのノスタルジックな雰囲気など、具体的な瀬戸らしさが伝わる工夫も考えられる。【蔵地委員】

・一般の方はこれまでの議論の経過を踏まえずに資料を見るため、基本構想に記載するもの、Ｑ＆Ａ等で補足するもの、基本計画や具体的な施策で示すものを整理すると良い。【梅村委員】

⑵市民への伝わりやすさ・デザイン

・高齢者、外国人、障害のある方などにも「自分たちの計画」と感じてもらえるよう、文字を大きくする、ルビを振る、やさしい日本語を使う、音声で聞けるようにするなどの工夫が考えられる。子どもにも分かる簡易版を用意することも検討してほしい。【神田委員】

・介護サービス総給付費などの数値については、その数値が何を意味しているのかが分かるようにすると良い。【林委員】

・基本構想は誰がどのような場面で読むのかを考え、文字量を抑え、多くの市民が「読んでみよう」と思えるものにすることが重要である。詳しい内容はＱＲコード等から補足情報につなげる構成も考えられる。【神田委員】

⑶基本構想と基本計画等とのつながり

・基本構想だけを見ても、その下に基本計画があって具体的な内容につながっていくという全体像が分かるようにするとよい。【野々垣委員】

・基本構想と基本計画について、「この部分が基本計画のここにつながる」と分かるようにすると、２冊をあわせて見た際に理解しやすい。【神田委員】

⑷土地利用・将来の社会変化

・基本構想は市の最上位計画として長期的な方向性を示すものであり、土地利用についても、自然など守るべきものを守る視点を含め、都市計画マスタープラン等の個別計画の柱が分かるようにする必要がある。【石川会長】

・２０４０年を見据えた社会の変化、瀬戸の強み、目指す方向性、４つの要素のつながりは良い形で整理されている。テクノロジーによる変化も大きな影響を与えるものであり、基本構想で示した未来の変化を、基本計画の具体的な取組へどのようにつなぐのかが重要である。【浦田委員】
・ＡＩの普及などにより大きく異なる時代を迎える中、その可能性と脅威の両面を踏まえ、基本構想の中でどのように捉えるのかを検討する必要がある。【石川会長】

≪報告事項≫

１　基本計画について

①報告内容

・基本計画について、パブリックコメント用の素案について報告を行った。

②委員意見要旨

⑴基本構想とのつながり・計画全体の考え方

・基本構想の内容が基本計画のどこにつながっているのかを示すなど、市民が両者を行き来しながら読めるようにすると理解しやすいのではないか。【鷲見委員】
・「化学変化」を起こすためには、福祉やインフラなど暮らしを支える「守り」や「基盤」も重要である。そうした基盤があるからこそ新しいことに挑戦できるという関係が示されると、基本構想と基本計画のつながりも分かりやすくなる。【水谷委員】
・超長期的には人口が大幅に減少する可能性があり、１００年後の世代も幸せに暮らせる地域を目指して、今何をすべきなのかを考える必要がある。その大きな流れの中で、様々な「化学変化」を起こしながら新しい時代を迎えるという考え方で、基本構想と基本計画をつくってほしい。【石川会長】

⑵分野別政策目標・指標

・健康福祉分野の「家族と暮らしている障害者の割合」は、家族による介護を求めているようにも受け取られかねない。一人暮らしやシェアハウスなど様々な暮らし方があることを踏まえ、「自立して暮らす障害者の割合」なども含め、指標のあり方を検討してほしい。【林委員】
・「障害者の経済的自立の支援」は、自立には様々な側面があることを踏まえ、「経済的」と限定する必要があるか検討してほしい。また、「親子がともに成長できる環境づくり」には「安心」の要素も重要であり、「多様な価値観を認め合う」についても、人権や人の尊厳など何を大切にするのかが伝わる表現を検討するとよい。「消費生活相談件数」「犯罪認知件数」についても、地域共創・多様性分野を測る指標として適切か確認するが必要がある。【神田委員】
・産業・観光分野について、新しい企業や産業がどれだけ生まれたのかなど、新規事業や起業に関する指標も考えられるのではないか。ＡＩの活用なども含めた新しい取組や、その成果を測る指標があってもよい。【梅村委員】
・産業・観光の「観光消費額」については、瀬戸市観光推進指針の「量から質へ」という考え方との整合を確認してほしい。【吉澤委員】
・指標の現状値と目標値について、時系列的な推移も踏まえ、目標値の設定の考え方を整理する必要がある。【石川会長】

⑶重点パッケージ・分野横断の取組

・重点パッケージについて、ＡＩなど２０４０年に向けた社会変化や、防犯・防災、観光、産業、教育などの視点を、さらに盛り込むことも考えられるのではないか。【鷲見委員】

・重点パッケージの中に、市民だけでなく市外の方が関わることが示されている点は良い。その他の部分についても、地域外の方も含まれることが分かるようにすると良い。【吉澤委員】
・４つの基本姿勢（デザイン思考）は非常に良く、より大きく打ち出してもよい。また、９つの政策分野には相互に関係するものも多く、行政の縦割りを越えて横につなぐ仕組みが必要であり、重点パッケージにはその役割が期待される。【堀部委員】
・重点パッケージの「『稼げる』地域・人への発展・成長」という表現については、「稼ぐ」「成長」だけでなく、生きがいやウェルビーイング、地域で活躍し、自分の存在意義を感じられることなどの価値も含めて検討できるとよい。【鷲見委員】

⑷各分野の内容・瀬戸らしさ

・産業・観光分野では、小さな企業やツクリテが活動できる拠点や、東京・名古屋、起業の専門家などにつながる機能があるとよい。都市整備では、新瀬戸駅周辺と尾張瀬戸駅周辺の役割分担を明確にし、尾張瀬戸駅周辺を観光の拠点として戦略的に位置付けることなども考えられる。また、学校の窯の活用など、教育・子育てと瀬戸らしさを組み合わせた取組も考えられる。【伊藤委員】
・尾張瀬戸駅周辺の「土地の高度利用を促進する」という表現は、意味を明確にした方がよい。また、新しいものをつくるだけでなく、昔ながらの町並みや歴史的な環境など、今あるものを残す視点も都市整備に必要である。【野々垣委員】
・学校についても、子どもだけが学ぶ施設ではなく、大人や高齢者が学ぶ場にもなり得る。また、ＤＸやＡＸなどを活用し、市職員が働きやすい環境を整えることも重要である。【堀部委員】
・産業や働く場所が安定しなければ人は集まりにくい。ツクリテや企業が集まり、新しい企業が生まれるまちという方向性を強く打ち出してほしい。また、若い人が集まる観光など、今の時代に合った視点も重要である。【蔵地委員】

⑸政策体系・計画の進行管理

・政策体系について、「政策」の中に「政策の方向性」がある構成には違和感がある。限られた予算や人材を投入し、事業を実施して成果につなげるというロジックモデルの考え方で整理すると分かりやすいのではないか。【石川会長】
・今回、基本計画を４年間とし、具体的な事業は個別計画や各年度の予算に委ねるなど、これまでの総合計画から仕組みを大きく変えている。ＰＤＣＡのチェックから次のアクションへどのようにつなげるのか、進行管理の仕組みを十分に検討する必要がある。【石川会長】

以上